

第6期モニター・アンケート 調査結果の報告

モニター制度は、学会誌の発行をはじめとするOR学会の活動に関して広く会員の意見を収集するために昭和55年度に設けられました。以来、半年の任期を原則に学会員よりモニターを募り、毎月、アンケートに答えていただくとともに、研究発表会開催時にモニター会議を開くことによって皆様の声を聞かせていただいております。第6期(昭和57年12月～昭和58年5月)からは、さらに範囲を広げ、1回限りのモニターとして毎月会員の中からランダムに15名の方々を選びアンケートを送付することにしました。

アンケートの作成と集計は研究普及委員会モニター小委員会の責任で行ない、集計結果は理事会、編集委員会など各項目ごとに適切な担当部所へ引き継ぎ、学会の諸活動に反映しています。また第6期のモニターには、現在編集委員会に加わってご活躍なさっている方もいらっしゃいます。それでは主な意見を報告いたします。

1. OR誌の特集記事について

第6期半年分の特集記事について興味の有無、難易度についてまとめたものを図1に示します。代表的な意見としては次のようなものがあります。

- ・特集記事には学生の教育用資料として役立つものが多い。
- ・現在の仕事に関係が深い記事はたいへん参考になる。
- ・自分の専門以外のORの分野について現状を知るのに役立つ。
- ・実務家にとっては内容が高度で、予備知識なしでは理解しにくい記事が多い。特に数式の多い記事は読む気にならない。
- ・編集者の意図が明確に出るような特集記事を望む。
- ・特集の内容を教科書的スタイルのものと応用的スタイルのものに分け、2号にわたってとりあげてはどうか。
- ・学会誌の特集であるから万人が興味をもつテーマを選

ぶのはむずかしい。特集の組立てに深く鋭いものがあれば充分なのではないか。

- ・従来のORの枠組みに捉われず、できるだけ広い立場から特集のテーマを選んでほしい。

2. OR誌全般について

- ・机上の計算だけでなく、実際に理論を現場に適用した結果をまとめた事例報告を望む。
- ・会員の体験談、特に失敗例について述べたような軽い記事が毎号あってもよい。
- ・1年または半年をかけて、ORの手法の入門講座を展開してはどうか。
- ・連載記事としては新しい情報の取得という面に照準をあわせて、やさしく見やすいものをつくってほしい。
- ・OR関連図書を紹介記事を充実してほしい。
- ・海外における研究動向の報告があってもよい。
- ・OR誌は論文誌ではないのだから、あまりむずかしい記事はのせないでほしい。

3. 研究発表会について

- ・特別講演は毎回一流の方の講演がわかりやすく行なわれている。
- ・ペーパーフェアは良い企画だが、それにふさわしい会場を準備するのはなかなかむずかしい。
- ・プログラムの決定が少し遅すぎるように思う。
- ・一律15分講演、5分質疑という発表形式にはとらわれなくてもよいのではないか。内容が豊富な発表では時間不足となることが多い。
- ・見学会の日程を研究発表会の間に組み込むのは不可能だろうか。

4. 研究部会について

第6期モニターの方々には約半数がなんらかの研究部会に出席した経験をおもちでした。

特集テーマ	興味の有無					難易度				
	5	10	15	20(人)		5	10	15	20(人)	
57年12月 信頼性のOR	かなりある	ややある	普通	あまりない	ない	難解	やや難解	適当		
58年1月 ORのはじまり							適当			やや易
58年2月 鉄鋼のOR										
58年3月 スーパーコンピュータ										
58年4月 行政改革										
58年5月 建設のOR	かなりある		ややある		ほとんどない	難解		適当		

図1 OR誌の特集記事に対するアンケートのまとめ

- ・研究部会に参加することはおもしろく、しかも役に立つ。多くの会員が参加して話題を広げていってほしい。
- ・OR学会にふさわしい研究部会を恒久的に設置すべき時期にきていると思う。
- ・予算をもっと増やし研究部会の活動をやすくしてほしい。
- ・研究部会ごとに時々座談会などを開き、結果をOR誌に掲載してほしい。

5. 講演会、シンポジウム等について

- ・地方で開く講演会を多くしてほしい。
- ・1年間の予定を早めにつくるべきである。
- ・時にはORとはまったく違った分野の方々の講演があってもよいと思う。
- ・本などで自学自習がむずかしいテーマをセミナーでとりあげてもらいたい。

6. その他

- ・他学会との交流を活発に行ない、OR周辺分野の話題・成果等について報告してほしい。
- ・1982年11月号に掲載された「OR学会の進むべき方向」の内容はすばらしいので、これをどのように具体化するののかという問題を会員の間で討論すべきである。
- ・OR事例集の発行を望む。
- ・モニターの意見がどのように学会活動に反映しているのがよくわからない。
- ・モニターをやると、OR誌をよく読むようになるので

ORの常識を養うのにたいへん役に立った。

以上、簡単に第6期モニターの方々のご意見を紹介させていただきました。他にも学会の諸活動に対してご意見がありましたら、自由に学会事務局までお寄せください。また今後、ランダム抽出の結果モニターアンケートが届きましたらぜひご協力をお願いいたします。

〔研究普及委員会〕

〈第6期モニターの方々〉

栗野敏雄、石堂一成、稲場日出男、今井良夫、岩村覚三、氏家勝巳、浦谷規、遠藤靖、岡田吉諒、金子準二、栗原英治、坂本公一、塩出省吾、杉本英二、鈴木一行、住山哲夫、田村興造、成久洋之、松村茂行、水野真治、依田浩。

次号予告

特集 経営意思決定と会計情報

オペレーショナルマネジメントと会計情報

年度予算と多目標計画法

意思決定会計へのパソコンの活用

経営戦略をサポートする会計情報

意思決定会計の実践

山口 俊和

福川 忠昭

真鍋龍太郎

伏見多美雄

石井 侃